

令和4年度女性活躍推進事業「女性のためのキャリアアップセミナー」

3日目

私らしい管理職スタイルをイメージしよう

<開催レポート>

令和4年12月3日（土）13時30分～16時00分

キャリアアップセミナー3日目は、2日目に引き続き、株式会社ワーク・ライフバランスの大塚万紀子さんを講師に迎え、さらに管理職の先輩として、応用地質株式会社の井上由美さん、日本生命保険相互会社の梶原織梨江さん、武州工業株式会社の宮川梨恵さんにお越しいただきました。管理職になったきっかけ、現在のモチベーションなどのお話から、質疑応答を通じて参加者と交流しました。

—— 自己紹介 ——



宮川 梨恵さん（武州工業株式会社）

武州工業は従業員147名に対して、男女比率が女性が3割、男性7割の会社です。29歳のときに今の武州工業に転職しまして、現在1歳の子どもがいます。人事のリーダーとして、プロジェクトリーダーを4年ほど担当しています。メンバーにやりがいと成長の機会を提供し、変化に強い組織作りに人事として貢献することを目標としています。



梶原 織梨江さん（日本生命保険相互会社）

日本生命は、全国に従業員が7万名おりまして、そのうち5万名がいわゆる保険のセールスを担っている女性です。

私は総合職ということで、2014年に課長、管理職に昇格して同時に異動という一つの転機が訪れるんですけども、その後は人事部門でD&Iダイバーシティを担当しまして、例えばこういった女性管理職の育成だったり、男性育休とか、管理職の意識改革みたいなところをやっていました。

現在は総合法人という、いわゆる企業向けの営業の部長を担っているというのが私のキャリアになっております。



井上 由美さん（応用地質株式会社）

大学卒業後ずっと応用地質株式会社という会社で働いています。また、土木技術者女性の会という土木系の女性が集まる団体にも所属しています。

1990 年、九州支社に入社して、九州支社で初の女性技術者ということで、妊娠がわかったときにはもうやめるしかないなと思っていましたが、どうにか居座ることになりまして、2 人子供がいます。

子供が小学校に入学するときに異動を希望し、管理職になることも全く考えていませんでしたが、周りから勧められて営業所長を 3 年間やりました。

2018 年の 7 月から福島に単身赴任になりまして家族は今も福岡にいます。福島では前職と違う全然違う分野に従事することになりましたが管理職の仕事だったら同じかなという感じで、淡々とやっているところです。タイミングで福島に行ったらトントンと課長から副部長になって今年部長になりました。

———大塚さんより 3 人への質問———

Q. 管理職に挑戦する中で、思い切ってやめた仕事や習慣はありますか？

【宮川さん】

仕事が大好きだったけれど、時間外に仕事をするをやめました。

【梶原さん】

残業をバツサリやめ、部下の無駄な資料づくりもやめました。限られた時間の中で自分ができることと任せるべきことを分けるようにしました。

【井上さん】

子供のお弁当作りをがんばらない。丁寧に家事をしなくても生きていけるかなと思います。

Q. 女性が管理職としての立場で、年上の男性が部下になった場合、どんな工夫をされていますか？

【宮川さん】

その人に興味を持つ、ということはよくやっています。

【梶原さん】

自分の価値観を押し付けない。その人のことを尊重してまずは自分から好きになります。

【井上さん】

年上にも年下にも「さん」付けで呼んで対応を変えません。

——この後、参加者の皆さんがゲストの話を聞いて疑問に思ったこと、ご自身の悩み等を付箋に記入していただき、その中からいくつかピックアップしてインタビュー形式でお答えしてもらいました——

◆宮川さんへの質問

Q. 新卒から一つの企業にいますが、20代で転職をされていて今後への不安はなかったですか？

【宮川さん】

正直不安はありました。でも自分がもっと活躍できる場所に前向きに転職するのは悪いことじゃないと思います。

本当に自分が病むぐらいだったら楽しく仕事したいじゃないですか。これからも楽しく生きていくための仕事、ライフワークバランスだと思うので今、結果的に言うと全然後悔していません。

◆梶原さんへの質問

Q. 女性だから下駄をはいている、と思われるのをはね除けるのがしんどいです。そんなに頑張らないと駄目なんでしょうか？

【梶原さん】

そう思われているんじゃないかという感情がもしあるんだったら、自分なりにそう思われないように努力する姿を見せるということしかないかなと思います。そして自分は頑張っているんだぞって自分を褒めてあげる、こういうこともすごく大事だと思います。

◆井上さんへの質問

Q. 専門職なので管理職には今興味がなく、自分のスキルアップにしか考えがおよびません。管理職になるメリットはありますか？

【井上さん】

技術屋さんは、自分の技術を極めることに専念したいタイプの方もいるんですけど、管理職になって何がよかったかというと、ある程度自分で自分とチームの時間をコントロールできるので少し楽ができるというところ。あとは入ってくる情報量がやっぱり違って、いろいろな情報が広く入ってくことで、俯瞰的に物事を見られることかと思います。

——インタビュー後は、テーブル毎に感想や発見をシェアするグループワークを行いました——

◆先輩管理職から参加者の皆さんへ

【宮川さん】

私らしい管理職スタイルをイメージしようということで、こうあるべきなんじゃないかとか皆さん悩まれて今日参加されているのかなと思います。ですが、本当に正解はないと思います。自分も変わるし、周りも変わるし、日々違う中で流れに乗りながら一生懸命仕事をしていますが楽しく管理職ってできるんだと思っています。今管理職の方もこれから目指している方も、一緒に働く女性としてやっていきたいと思っています。

【梶原さん】

同じ悩みを共有する相手がいないとか、なかなか理解されないというモヤモヤした気持ちを持っていらっしゃる方が多いのかなというふうに感じました。私もそうでした。なので、こういった会社の枠を飛び越えて同じ悩みを持つ方々と交流するというのは私自身もすごくいい経験になりましたし、元気をもらいました。ここで繋がった人がまた何年か経ってどこかで出会ったりとかも本当にあるので、ぜひこの機会を大切にいただけたらと思います。

【井上さん】

今、情報がすごくあふれていて、いろんな心配を先回りする人多いと思います。特に子供たちとかを見ていると、起こるか起こらないか分からない心配を早くから気にしていて、やっぱりやめておこうとか。それは一番よくないのかなと思います。ですので、管理職の登用を打診されたときもとりあえずやってみて、駄目だったらまた考えればいいというぐらいの気持ちで進んでもらえればいいのかなと思います。

—— 参加者の声 ——

- ・お話の内容はもちろんですが、3名の皆さん+講師の大塚さんのタイプがそれぞれだったことで、「いろんなタイプややり方があって良い」と感じる事が出来ました。
- ・他の方と色々な話が来て、刺激になりました。
- ・今までずっと断ってきた管理職でしたが、ちょっとやってみようかなという気持ちが湧きました。
- ・管理職に興味がなかったが、今後のキャリアの視野に入りたい。

- ・ 普段聞けないことがたくさん聞けた。職場に女性管理職がないので、とても有意義な時間となった。
- ・ 自分と似た立場の方々と意見を交換できたのが良かった。

(アンケートより一部抜粋)